

学 校 保 健

平成12年9月1日

No. 233

(財)日本学校保健会ホームページアドレス
<http://www.hokenkai.or.jp/>

JAPANESE SOCIETY
OF
SCHOOL HEALTH

(財)日本学校保健会

副会長就任にあたり

(財)日本学校保健会 副会長 山 田 統 正



この度、副会長をお受けすることになり、その重責に身の引きしまるおもいであります。

学校保健事業は、周産期保健、母子保健から職域保健、高齢者保健へと繋げる生涯保健事業の中で重要な位置づけにあり、まさに国の政治、社会情勢と直結する大事業といえましょう。

近年、わが国の社会情勢及び生活環境の著しい変化から、地域社会、家庭はもとより学校現場に多くの問題が生じております。生活習慣病の若年化に加え、いじめ、不登校、学級崩壊など心の問題が深刻化し大きな社会問題に発展しています。児童生徒の健康な生活を築くためには、学童期における心身のバランスのとれた健康教育が重要であります。

また、学校保健事業を積極的に推し進めるためには学校保健に携わる各職種が連携を密にし、更には家庭、地域社会が一体となり、地域保健活動の一環として対応すべきであります。

しかも、学校医活動は地域医療活動の一部でもあり、医療連携は欠かすことが出来ません。

それ故、各医師及び医療機関が特性を生かし、学校医活動に対応してこそ、その実が上げられることになりましょう。

現在、わが国は情報技術の重要性から学校教育に、コンピューターの導入を図りつつありますが、同時にその弊害も十分に考慮すべきであります。生身の人間関係の稀薄から諸問題が発生しており、スポーツ等の部活動を始めとする部活動を通じた交友関係や、親子をはじめとする家族の触れ合いの重要性を忘れるべきではありません。そして児童生徒に進学のための「読み、書き、算数」にも増して自分の健康を自ら守ることの大切さを是非体得させたいものであります。今後は学校保健会を通して学校保健事業に積極的に対応して行く所存であります。

目 次

巻頭言	
副会長就任にあたり	…1
「まず話し合うこと」を スタートに！	…2
第35回東北学校保健大会	…2
第50回九州地区学校保健 研究協議大会	…3
第46回中国地区学校保健 研究協議大会	…4
第51回関東甲信越静学校保健 大会開催される	…5
第43回全国学校保健主事研究 協議会・東京大会を終えて	…6

会報をよくするため、読者のご意見を求めています。お葉書をお寄せください。

乞御回覧

校 長	教 頭	保健主事	養護教諭	P T A	会 長	副会長

「まず話し合うこと」をスタートに！

(近畿学校保健連絡協議会を開催して)

和歌山県学校保健連合会

披露宴形式でディスカッション

恒例の近畿学校保健連絡協議会が7月6日和歌山市で開催されました。今年は近畿各府県市の担当者のお許しを得て、これまでの運営方法、会場のレイアウトを大幅に変え、“披露宴形式”で実施しました。

披露宴形式？　そうです。まさに披露宴に使う丸いテーブルを会場に並べ、所属府県市と職種が出来るだけ同じようにならないよう参加者に座っていただき、それぞれの思いを遠慮無く言葉にして、自由にディスカッションしていただくという趣向なのです。

参加者は各分野の専門家で、職場で、地域で貴重な存在として重要な仕事をされており、健康問題への取り組みについてももちろん実績のある方ばかりです。そして、近畿各地から忙しい時間を割いて集まっていたのですから、ただ出席していただくだけではあまりにももったいない…この素朴な発想を“披露宴形式”という形で実現してみたわけです。

この会の開催に際して和歌山県の養護教諭研究会、保健主事研究会の方からお手伝いの申し出がありました。しかし、手伝いは一切お断りし、そのかわり会の中で積極的に発言していただくようお願いしました。「学校三師の先生方と同じテーブルで話せといわれても…」と会が始まるまではずいぶん気にされている方もいました。「何をしゃべればいいのかかわからないので、今日は皆さんの話を聞かせてもらおうと思っています。」とおっしゃられる歯科医の先生もいました。しかし、結果はその反対となりました。

話すことは尽きない

会が午後2時からということもあり、十分な時間はありませんでしたが、それでも1時間20分近く各テーブルで活発な意見交換が行われました。各テーブルの司会や記録もその場で決めていただくようにしていたのです

が、先ほどの“不安”をもたらしていた養護教諭や歯科医の方々の中にはテーブルのディスカッションを取り仕切っている方もおりました。

よく考えると同じ職種での研修や話し合いの機会は多くはありませんが、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、それに学校関係者、教育委員会関係者がひざを突き合わせ自由に意見を述べ合うという機会はほとんどありません。

「保護者にもっと訴えていかなければ…」、「学校長がもっとしっかりしてくれないと…」、「医師、歯科医、薬剤師を学校はもっと活用してほしい…」など各テーブルでは様々な意見が飛び交い、主催者の欲目かもしれませんがディスカッションの終了を惜しむテーブルもあったようです。

まず話し合うことから

いま学校には健康問題が山積しています。そして多くの人々の努力にもかかわらず十分な解決方法が見つからない問題も少なくありません。学校が責任を持ってその解決にあたらなければならないことは言うまでもありませんが、すべてを学校が引き受けるのではなく、多くの専門家の知恵や経験を学校に集め、保健活動・健康教育をより活発化することこそ肝要です。

もちろん、学校保健委員会の充実が常に叫ばなければならない実情を見ても、その実現は簡単ではありません。しかし、すべての出発はまず話し合うことにあると思います。難しいことを言わず、とにかく集まれるものが集まり、対等の立場で意見を述べ合う、このことが新しい学校保健の出発点になるのではないかと、参加者の熱心なディスカッションを聞きながらそんな感想を持ちました。

(和歌山県学校保健連合会事務局 北山敏和)

第35回東北学校保健大会

青森県学校保健会

第35回東北学校保健大会が、去る7月27日、28日の両日、青森県西津軽郡鰺ヶ沢町を会場に、県内及び東北各県から、教職員、学校医、学校歯科医、学校薬剤師及び学校給食関係者約600名の参加を得て開催されました。

今年度は、「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進」—21世紀を担う子どもの心とからだの健康のために—を研究主題に掲げ、開

会行事での(財)日本学校保健会矢野会長の御祝辞の後、記念講演「心とからだの健康」—相撲人生を通じて—と題し、鰺ヶ沢町出身の元小結 舞の海秀平氏が角界入りした当時や各場所でのエピソードをまじえながら、自らの体験から、「心とからだの健康の大切さ」を御講話いただきました。また、シンポジウムでは、元文部省体育局体育官 吉田瑩一郎氏をコーディネーターにお招きし、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた今後の健康教育



の在り方について、御指導いただきました。

二日目は、7分科会において、県内並びに県外の発表者2名による実践研究が報告され、それらをもとに、熱心に協議や情報交換が行われました。

現在、人間関係の希薄化、精神的ストレスの増大などの諸問題をはらんだ社会の中で、学校教育でもまた、肥満や生活習慣病の兆候をはじめ、いじめ、不登校、さらには、薬物乱用の低年齢化や性の逸脱行動など深刻な問題を抱えています。

このような状況の中、東北各県において、開催されている本大会は、誠に意義深く、第35回大会が、青森県鯉ヶ沢町において開催できましたことは、日本学校保健会をはじめ、東北各県教育委員会及び関係各位の御協力の賜物であり、心から感謝申し上げます。

本県においては、一層、健康教育の充実を図り、21世紀を担う子どもたちに「生きる力」をはぐくむこととしておりますので、今後とも御指導・御鞭撻をお願いいたします。

なお、来年度は、岩手県盛岡市において第36回大会が開催される予定になっておりますことを御案内申し上げます。

第50回九州地区学校保健研究協議大会

財団法人熊本県学校保健会 副会長 中 山 重 臣

第50回九州地区学校保健研究協議大会が平成12年8月7日・8日の両日、約800名の参加者のもと熊本市において開催された。

研究主題「生涯を通じて健康で豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもの育成」—学校・家庭・地域社会の連携をとおして—のもと、第1日目は、開会式・特別講演・アトラクション・シンポジウムが行われた。

第2日目は、7分科会に分かれ、それぞれ3名が実践発表を行った。

開会式の主催者あいさつでは、柏木明大会会長から大会の趣旨、経緯等に合わせ、本大会は来年度から、これまで別々に開催されていた九州地区養護教諭研究協議大会、九州地区学校栄養職員研究協議大会と本大会の三大大会を合併して、大会名も九州地区健康教育研究大会と改め、新しく出発することについてのお話があった。

また、来賓の熊本県潮谷義子知事の心温まる祝辞が印象に残った。

特別講演では、落語家の橘家円三師匠から空気、食事、心など生活の中で健康を維持するための十カ条をわかりやすく、しかも、小話を交えながら楽しい御講演をいただいた。

シンポジウムでは、「生きる力を育むこれからの学校保健」をテーマに、コーディネーターからの基調提案後、学校医、PTA、校長、養護教諭の4名による、それぞれ

の立場からの発表があった。

2日目：分科会の課題及び協議内容

第1分科会：学校経営と組織活動

- ・学校保健組織活動の活性化と保健管理について
- ・保健管理・安全管理を適切に行う学校保健計画、学校安全計画の立て方や実践の進め方について
- ・家庭や地域社会及び学校間の連携の進め方について

第2分科会：保健・安全教育

- ・健康生活について実践意欲も高め、習慣化を図る保健学習と保健指導について
- ・保健学習と保健指導を効果的に進めるための教材の活用について
- ・危険を予測し、安全に行動できる能力を育てる指導の進め方について

第3分科会：心の健康教育

- ・豊かな心を持ちたくましく生きる児童生徒を育てる学校経営の進め方について
- ・心の健康指導を要する児童生徒の相談活動や指導体制について
- ・心の健康問題を解決するための学校・家庭・地域社会及び関係機関の連携について

第4分科会：エイズ教育を含む性教育

- ・エイズを含む性に関する知識と理解を深め的確な行動がとれるための指導の進め方

- ・発達段階に応じた効果的な指導計画の作成と指導の充実を図るための体制づくりについて
- ・エイズ教育を含む性教育を効果的に進めるための学校・家庭・地域社会の連携について

第5分科会：疾病予防と健康増進（歯科保健を含む）

- ・定期健康診断を生かす指導の進め方について
- ・疾病予防と健康生活への実践意欲を育てる保健指導について
- ・管理指導を要する児童生徒の疾病の管理と指導について

第6分科会：学校環境衛生と環境緑化

- ・快適な学校環境づくりを目指した活動計画とその進め方について

- ・日常点検・定期検査及び事後措置の効果的な進め方と児童生徒の活動について
- ・環境教育・環境緑化を推進するための学校・家庭・地域社会の連携について

第7分科会：家庭及び地域社会と連携した健康増進活動

- ・子供会や青少年団体等が行っている学校外活動やボランティア活動の進め方について
- ・子どもたちの参加意欲を促す魅力ある健康増進活動の進め方について
- ・基本的生活習慣を形成するための、学校・家庭・地域社会の連携について

以上の研究課題、協議内容に基づいた実践発表があり、活発な協議が行われた。

第46回中国地区学校保健研究協議大会

山口県学校保健連合会 会長 松田 昭 正

第46回中国地区学校保健研究協議大会は、「生涯を通して豊かな心を持ち、健康で安全にたくましく生き抜く幼児・児童・生徒の育成—自ら守り育てるところとからだ—」を主題に掲げ、今後の学校保健活動がより一層活発に推進される礎になることを願って開催された。

参会者だれもが、子どもを取り巻く生活環境をはじめ生活習慣病等子どもの心と体に大きな影響を与えている数々の課題について危機感を持っていることは言うに及ばぬことである。こんな中、本大会は開催された。

特に、今回は一方通行的な講演でなく、参加して発言できるシンポジウムとして「21世紀に向けた健康教育のあり方」について各分野の専門家による提言と、シンポジストの主題に迫るまとめや参会者の異なる視点からの意見など、全員協議は時宜に合ったものであった。

このシンポジウムにおいては、鳥取県の小学校を例に学校教育において今日対応が求められている健康教育の現状報告、これらを解決する方策と新教育課程における健康教育の在り方を検討すべく、平成11年からの3カ年の「健康推進計画」の提示は参会者に課題の提供となった。

また、高等学校における「総合的な学習」における健康教育の実践例が、紹介された。市町村の保健福祉課の協力で「4～6カ月の乳児健康診断の手伝い」は、体験を通した「健康の重要性」の学習の一例として、今後の保健教育、総合的な学習の参考になった。

今回は、提言者として、「健康のカギを握る保護者」にも加わってもらった。われわれは、いろいろな場で、家庭・夫婦のぬくもりの大切さについて語ってはいるが、実際保護者として、「いつ・どんなとき・どのくら

い・どんなことを語り・なにを指導するか」といったことについて具体的に語り合ったことはないことに気がついた。参会者も殆どが保護者でありながら、共感を覚えるとともに、一律にはいかない難しさを改めて痛感させられた。

最後に、学校現場を医師という専門的立場から、21世紀に向けて子どもを取り巻く深刻な健康問題への解決にむけての方向性と、学校医としての今後の対応について考えるべき時がきているという提言は、参会者一同、学校保健における保健管理の限界と新たな取り組みの必要性、学校医のリーダーシップ、新しい時代に対応する家庭・地域の連携の在り方等、現実の対応の上に立った新たな展望の生まれる提言であった。

このシンポジウムの後に開かれた、職域部会〔学校薬剤師部会、校長園長部会、学校保健、安全担当教員部会、養護教諭部会、中国地区学校医大会〕においても、それぞれにおける、課題や問題点の提示や協議、講師を招聘しての研修等活発に実施された。

二日目は、研究協議題別に7つの班に分かれて、各県からの資料提供者による発表や、質問、協議、適切な指導助言者の支援により、子どもたちを取り巻く急激な社会変化に対応できるヘルスプロモーションの考え方を生かした健康教育の推進の在り方、学校、家庭、地域社会の連携の上に立った取り組みの重要性について認識を深めるとともに、会員一人一人の健康教育推進の柱が明確になって山口を後にされるとともに、次回開催地：鳥取で再び実践を交換しあえる親密感が醸成され、閉幕できたことに感謝している。

第51回関東甲信越静学校保健大会開催される

第51回関東甲信越静学校保健大会 神奈川県実行委員会事務局

第51回関東甲信越静学校保健大会が、平成12年8月24日、25日に神奈川県横浜市で神奈川県立音楽堂をメイン会場として、1000余人の学校保健関係者の参会のもとに盛大に開催された。

本大会は、学校保健関係者である学校医、学校歯科医、学校薬剤師や校長、教頭、教諭、養護教諭、その他の教育委員会関係者が一堂に会して、学校保健の現代的課題や今日の幼児・児童・生徒等の様々な心や体の問題などを協議しあい、今後の具体的な対応方策等の究明に資するものである。

第51回の本大会のメインテーマは「いきる力を育む健康教育」—サブテーマ「自ら学び・考え・行動できる健康で心豊かな子どもの育成」—のもとに、1日目は全体会、2日目の班別協議会は、6課題12協議題を設け6分科会で研究協議した。

和唐正勝宇都宮大学教育学部教授の「健康教育の新たな展開と可能性」と題する基調講演では、健康教育、特にヘルスプロモーションを重視しその中心に教育的アプローチを位置づけることを強調された。また、新学習指導要領と健康教育について、体育・保健体育の改訂の方向や、総合的な学習の時間と健康教育について例示を掲げられながら、今後の学校教育のあり方について提言された。

シンポジウムは基調講演をうけ、「健康をテーマとした総合的な学習の進め方」について、健康教育を推進する立場から、根津富夫氏、校長の立場で榎本寛子氏、学校医の立場から中村泰三氏、教諭の立場から岡崎勝博氏にそれぞれ提案いただいた。

2日目の班別協議会は各分科会毎に協議題を設け、二人の方から提案をいただき、研究協議を行った。

協議題は、今日の子どもの「いきる力を育む健康教育」を進めていく上で必要不可欠な課題であり、各班毎に参会者に熱心な研究協議がなされた。

健康教育の推進にあたり、学校や地域、関係機関の協力はもとより教育に係わるすべての人々の連携が大切であることを改めて感じさせられた大会でもあった。

この本大会に参加した関係者の方々が、その成果を、各学校の教育活動の中に生かしてさらに発展させることを期待している。

なお、同時に開催された職域部会では、学校医部会、学校歯科医部会、学校薬剤師部会毎にシンポジウム等の研究協議や、情報交換等が行われ有意義な大会であった。

大会に参加いただいたすべての方々のご協力があり、神奈川大会が成功したことに対し改めて感謝するとともに、皆様方の健康を心より祈念し、第51回関東甲信越静学校保健大会の開催報告とする。



文部省体育局人事異動

○平成12年6月15日

学術国際局長（体育局長） 遠藤 昭雄

体育局長（高等教育局審議官） 遠藤純一郎

文化庁文化財保護部長（主任体育官） 長谷川裕恭

主任体育官（体育局体育課長） 北見 耕一

体育局体育課長（文化庁芸術文化課長） 松元 昭憲

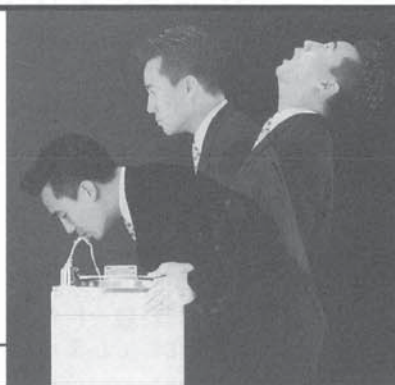
多人数のうがい励行に

フココ®自動うがい器
CO-WSS型

ペダルを踏むだけで、適正倍率に希釈されたうがい液がノズルから出る、コップいらすのうがい器です。ウォータークーラーと一体型で機能的です。

- マイコン制御の自動洗浄
- うがい液は、衛生的なB.I.B.*交換式
- コンパクト設計 ●防虫シート入り(2年間有効)
- サイズ 幅351×奥行364×高さ1,042mm
(ペダル、ノズルを含む)

お問い合わせは サラヤ株式会社 06(6797)2525 東京サラヤ株式会社 03(5461)8100



第43回全国学校保健主事研究協議会・東京大会を終えて

全国学校保健主事会 会長 林 眞 示

首都・東京において平成12年度第43回全国学校保健主事研究協議会・東京大会が160名余りの参加者で盛会のうち終了することができました。

研究協議会は、夏季休業の約半分に当る、8月10日・11日の両日、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催しました。当施設は機能的に設計されており、開会行事や全体会、課題別協議会、それに大会に必要な役員室、来賓室、講師室などの各部屋が十分確保され、施設・設備とも研究協議会運営には最適でありました。

今回の研究協議は、今年の島根大会において反省としてだされていた課題でもある、学校種別の「分科会方式」より問題別の「課題別協議会方式」の方がより効果的であり、また、参加者も目的意識をもって臨めるとの意見を取り入れて3つの課題(1)学校保健委員会(2)感染症に関すること(3)薬物乱用に関することを設定して行われました。

参加者についてはここ3年間では最も少ない大会であったが、課題を絞った関係から、内容的にも充実した感があつたと思われます。これもひとえに準備から開催までいろいろお世話いただいた文部省、東京都教育委員会はじめ、(財)日本学校保健会、日本体育・学校健康センター、全国養護教諭連絡協議会各位の多大なご協力、ご支援があつたからだと思います。また、実行委員会を組織し、実務面でのご努力をしていただいた本会理事・評議員の皆様にも心からお礼申し上げます。

さて、近年いじめ、不登校、薬物乱用、生活習慣病、性の脱行為等、さらに、青少年による凶悪な事件の発生など、明るくない教育関係のニュースが目につくようです。このような状況のもと、学校保健教育の中心となつてその任に当る保健主事が、表題として『自ら守り育てる心とからだ』と題し、また、趣旨として、『保健主事の執務上の諸問題について研修を深め、その資質の向上

を図り学校保健・安全の進展に寄与する』を掲げ2日間の研究協議を行うことは意義深いものがあります。

ここで本大会の内容について、項目のみにてご紹介しておきます。

○基調講話「学校保健の現状と保健主事」

文部省体育局学校健康教育課・教科調査官

戸田 芳雄先生

○記念講演「感染症とその対策」

母子愛育会・日本子ども家庭総合研究所

平山 宗宏先生

○研究発表・研究協議

「学校保健委員会」

発表者：群馬県高崎市立寺尾中学校

保健主事 熊倉 幸子先生

指導助言者：日本体育大学

教授 吉田瑩一郎先生

「感染症に関すること」

発表者：東京都渋谷区立神宮前小学校

保健主任・養護教諭 志野 治子先生

指導助言者：埼玉県川越市立砂中学校

養護教諭 戸田 徳子先生

「薬物乱用に関すること」

発表者：兵庫県立北摂三田高等学校

教諭・元保健主事 鴻谷 文夫先生

指導助言者：埼玉県川口市立戸塚西中学校

校長 並木 茂夫先生

3つの課題別発表と研究協議で、保健主事の活動について幅広く情報交換や、問題解決方法、また、指導助言者などから適切なアドバイスをいただいて2日間の研修を終了しました。

次回第44回も、東京都渋谷区代々木・国立オリンピック記念青少年総合センターで行います。多くの皆様の参加を期待いたします。

虎の門 (55)

未成年喫煙にもっと関心を

明らかに未成年である制服姿の高校生が、街中で堂々と喫煙しているのを大多数の方々は目撃したことがあるであろう。男女を問わず調査によると、近年は未成年者といっても、低年齢の下は、小学生4～5年生であると、まったく驚くべき現実が突きつけられている。青少年が喫煙経験を持ち、中にはすでに常習化してしまった者

もおおいと云われている。

たばこの有害性については、その科学的情報は周知の事実で、知らぬ者はいないはず。更に悪いことに、たばこから飲酒へ、また薬物乱用へとエスカレートしない保証はない。

してはいけないことを、きっぱりと教えなければならないのだが、周囲の大人が直接声をかけ、

その場で指導をすることは相当の勇気がいる。やはりこの問題は、家庭、学校、社会全体でもう一度声を大にして、正しい健康観を培い、自らの強い意志で、そうした道に入り込まない、自己に自信を持った子ども達を、一人でも多く育てることがわれわれの急務であろう。

編集委員 今村 旭

平成 12 年度 (財) 日本学校保健会編図書一覧

H 12.6.1

	書 名	判・P・定価	内 容	出版社
1	学校において予防すべき伝染病の解説 (関係者用) 学校 (平成 10 年度版)	A 4・P 21 400 円	学校で予防すべき伝染病等について、医学的見地かつ教育的教見地から指導・助言等を円滑に実施することが出来るように解説したもの。	本 会
2	学校保健の動向 (平成 12 年度版)	B 5・P 248 3,000 円 (送料込)	平成 12 年 10 月中旬刊行予定。わが国学校保健の動向を収録し、特集として幼児期の学校保健(保健管理、健康状況、食生活、事故とその防止)を取り上げています。学校保健に携わる人々に、広く活用していただきたい一書です。	本 会
3	ゆたかな身体と心を育むための 「望ましい生活習慣づくり」(平成 11 年度版)	A 4・P 134 700 円	将来、健康障害の大きな原因になるであろう「生活習慣」について、子どもたちのそれは日常どうあることが望ましいのか等について記述。	本 会
4	学校保健委員会マニュアル	A 4・P 64 500 円	「なぜ学校保健委員会が必要か」「こんな会議です」から説きおこし、会議の進め方、運営の実践モデルを掲載。さらに「これから新たに学校保健委員会を開催する場合に必要なノウハウ」までを詳細に解説した学校現場必見の手引書。	本 会
5	教師のための心の健康問題の理解と対応	A 5・P 24 300 円	心の健康問題の見方、とらえ方、かわり方を、子どもの心の発達に則して説明、さらに保護者への対応、校内及び外部関係機関との連携に言及、巻末に Q&A を掲載、見やすいように各課題を見開きページで掲載した。現場教師のための好個の解説書。	本 会
6	新しい保健学習のモデル —中学校における課題学習、授業書方式、ライフスキル学習—	A 4・P 110 2,000 円	今回は、主題を中学校の保険学習、とくに喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育に設定し、授業における教師の支援法、課題学習、「授業書」による保険授業、ライフスキル学習の進め方について授業実践(モデル)を通して解説した新しい解説書。	本 会
7	学校における水泳プールの保健衛生管理 (平成 11 年度版)	A 4 800 円	水泳プールの衛生管理についてのノウハウを分かりやすく解説。	本 会
8	学校における結核管理マニュアル	A 4・P 76 700 円	結核が、青少年にとっての恐るべき感染症であることは、今日においても変わらない。本書は、毎年のように「忘れた頃」を狙って発生する集団感染の防止を、国の「結核撲滅宣言」の趣旨を帯して、新たな視点からその対策を理解したものである。学校保健管理面での活用を切に望みたい。	本 会
9	平成 10 年度 児童生徒の健康状態サーベイランス事業報告書	A 4・P 200 2,000 円	児童生徒の健康をめざす諸活動を企画し、実践していくには、まず、その全体像の把握が肝要である。本書は本会独自のサーベイランス方式を通して、貴重な健康情報を集積している。ぜひ、保健活動に携わる諸氏の座右に備えていただきたい一書である。	本 会
10	学校生活におけるアトピー性皮膚炎 Q&A (平成 11 年度版)	A 4・P 50 700 円	アトピー性皮膚炎についての概念、病因、事例、対策等を Q&A 形式で記述し、アトピー性皮膚炎を持つ児童生徒が教育の過程で不利益を被らないためには、学校内でどのような対策をとる必要があるのか情報提供を目的とした。	本 会

からだに必要な 水分とイオンの補給に

(財)日本学校保健会推薦



ポカリスエット

商品に関するお問合せは
大塚製薬株式会社 03-3292-0021
ホームページ <http://www.otsuka.co.jp/>

「水分補給」及び「熱中症予防」教材の無料送付のご案内をしております。
下記までお問合せください。

お問合せ：健康と料理社 東京都千代田区九段南 4-7-19 TEL03-5275-6838/担当石巻・河西



アウトソール ミッドソール 中敷
(ラバー) (衝撃吸収材) (ラバーボンジ)

三層式ソール

JES(呼吸・吸圧)シューズ

JESに学問を!

科学されたJES(吸圧)シューズ!



日本教育シューズ協議会

TEL(086)272-5463

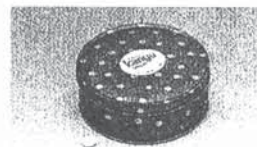
FAX(086)273-9439

カワイ肝油ドロップ

発育期に欠かせないビタミンが凝縮されたカワイ肝油ドロップは、「わんぱく」を応援します。



ビタミンA・D+ビタミンC



ビタミンA・D+カルシウム



製造 河合製薬株式会社 販売 河合薬業株式会社
東京都中野区中野6-3-5 ☎03-3365-1156(代)



学童の集団検尿に、 エームス尿検査試験紙。

エームス尿検査試験紙

ネフロスティックス[®]-L

体外診断用医薬品

バイエル メディカル株式会社

東京都渋谷区恵比寿1丁目19番15号

販売元:

三共株式会社

東京都中央区日本橋本町3丁目5番1号

JU2099-S

いつも暮らしの中に
LION

食べたらみがこう!

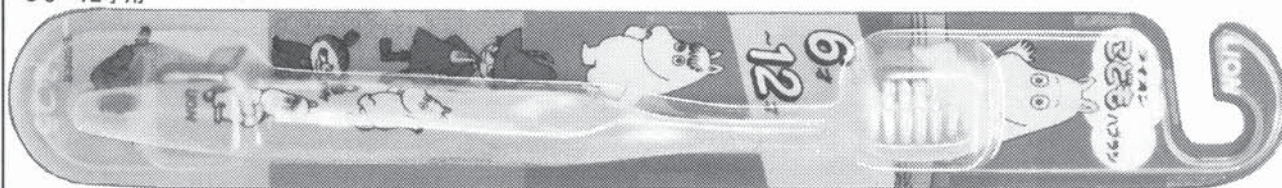
食べたらしっかり歯をみがいて、ムシ歯を防ぎましょう。

●6~12才用

推薦

日本学校保健会

ライオン
こども
ハブラシ



発行 (財) 日本学校保健会 矢野 亨 〒105-0001

東京都港区虎ノ門2-3-17
虎ノ門2丁目タワー6階

電話 03 (3501) 3785・0968

FAX 03 (3592) 3898

頒価 1部100円 (送料共)